

土木工事における付加価値生産性把握に向けた研究 研究協力業者 募集要領

1. 募集概要

国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター 社会資本システム研空室及び社会資本施工高度化研究室では、個別の土木請負工事毎の付加価値生産性の測定に向けた検討をしています。

生産性向上が求められる建設業界において、改善のサイクルを回すためにも、適切な生産性の測定方法の確立が有効な手段となります。

このため、上記目的をご理解の上、添付の資料に基づくデータの収集に関する意見交換にご協力いただける建設会社を募集します。

2. 募集対象

国土交通省が発注する土木工事の施工実績と資格があり、添付の様式に基づく調査に関して、意見交換に協力頂ける建設会社

研究期間は令和7年3月31日までとなります。

協力依頼内容について、研究の進捗に応じて選定された応募者に都度連絡します。

3. 応募要件

下記（1）かつ（2）を満たしていること。

- （1）建設業法に基づく経営事項審査を受けていること。
- （2）国土交通省地方整備局等の公共土木工事の受注できる会社として、国土交通省いずれか地方整備局の「有資格業者名簿」に登録されていること。

4. 応募手続きについて

（1）応募方法

協力を希望する会社の代表者は、別添応募資料に記載願います。

提出方法は **E-mail** とします。

（2）提出先

国土交通省 国土技術政策総合研究所

社会資本マネジメント研究センター 社会資本施工高度化研究室 宛

E-mail : nil-actd@ki.mlit.go.jp

（3）募集期間

令和6年5月20日（月）から随時受け付け

(最終期限：令和6年12月31日(火)17:00まで)

(4) 応募に当たっての注意事項

- 1) 募集期間を過ぎての応募は受け付けません。
- 2) 研究協力における費用について、協力要請事項毎に協議を行った上で費用負担の有無を決定いたします。
- 3) 応募要件を満たさない者、応募資料に虚偽が認められ場合は、応募は無効となります。

5. 選定方法

研究の進捗に応じて、社会資本施工高度化研究室にて、応募資料の記載内容が、3. 応募要件等に合致していることを確認します。

6. 応募資料確認結果等の通知

(1) 選定結果

応募者に対して合否を E-mail にて通知します。

(2) 選定の取り消し

選定を受けた者が次のいずれかに該当することが判明した場合は、選定を取り消すことがあります。

- 1) 虚偽その他不正な手段により選定されたことが判明したとき。
- 2) 取り消しの申請があったとき。
- 3) その他、選定の取り消しが必要と認められたとき。

7. 秘密の保持

本研究を通じて知り得た業務上の秘密は、決して第三者に漏らさないこととします。

8. 個人情報の取扱い

応募に関連して提供された個人情報については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」その他の観点から、応募企業の選定以外の目的に使用しません。

9. 応募資料の取扱い

選定されなかった応募資料は返却せず、当方で破棄します。

10. その他

本要領に記載のない事項については、別途協議を行うこととします。

また、募集期間中に本要領に変更があった場合、国総研ホームページ（本要領を掲載す

るページ) に変更後の要領を掲載しますので、ご注意下さい。

1 1. 問い合わせ等

国土交通省 国土技術政策総合研究所

社会資本マネジメント研究センター 社会資本施工高度化研究室 宛

E-mail : nil-actd@ki.mlit.go.jp

1. 付加価値生産性とは？（付加価値“労働”生産性とは？）

生産性の定義と生産性向上に関する考察

$$\text{生産性} = \frac{\text{産出量 (output)}}{\text{投入量 (input)}}$$

	物的生産性	付加価値生産性
労働生産性	$\frac{\text{【1時間当たり労働生産性】生産量(施工量)}}{\text{労働者数} \times \text{労働時間}}$	$\frac{\text{【1時間当たり労働生産性】付加価値額(賃金・利益)}}{\text{労働者数} \times \text{労働時間}}$
資本生産性	$\frac{\text{生産量}}{\text{資本ストック量}}$	$\frac{\text{付加価値額}}{\text{資本ストック量}}$
全要素生産性	$\frac{\text{生産量}}{\text{(労働+資本+原材料等)合成投入量}}$	$\frac{\text{付加価値額}}{\text{(労働+資本+原材料等)合成投入量}}$

(出典)公益財団法人 日本生産性本部HP <http://www.jpc-net.jp/movement/productivity.html>

■投入量 投入量 = 労働量 = 労働者数 × 労働時間

■産出量 物量 : m, m², m³, t, 基 等
 事業量 : 事業費(円)
 付加価値 : 労働(人件費), 資本(利益・配当)

• 「付加価値」とは？

1. 付加価値労働生産性とは？(そもそも、付加価値とは？)

- “**付加価値**”の定義:「生産活動(労働)によって**付加**された**価値**」
 - **価値**ある商品、価値ある仕事...その**価格**(お金)を支払うに**値**するモノ
(※マルクスやケインズは、価格は、「お金」ではなく本来は「時間」であると説いた。)
 - 流通過程を経て、それぞれの過程で価値が**付け加**わっていく
 - 小麦農家→(物流)→製粉会社→(物流)→パン屋さん→(物流)→お店
 - 種苗会社、肥料会社、水道会社、建設会社...
 - ある国の1年間の付加価値の合計 = GDP(国内総生産)
 - 付加価値(額)は、「賃上げ」、「投資」の原資。
 - それゆえに、(本来の)生産性 = 付加価値量 / 投入労働量

1. 付加価値労働生産性とは？（経済分析としての生産性）

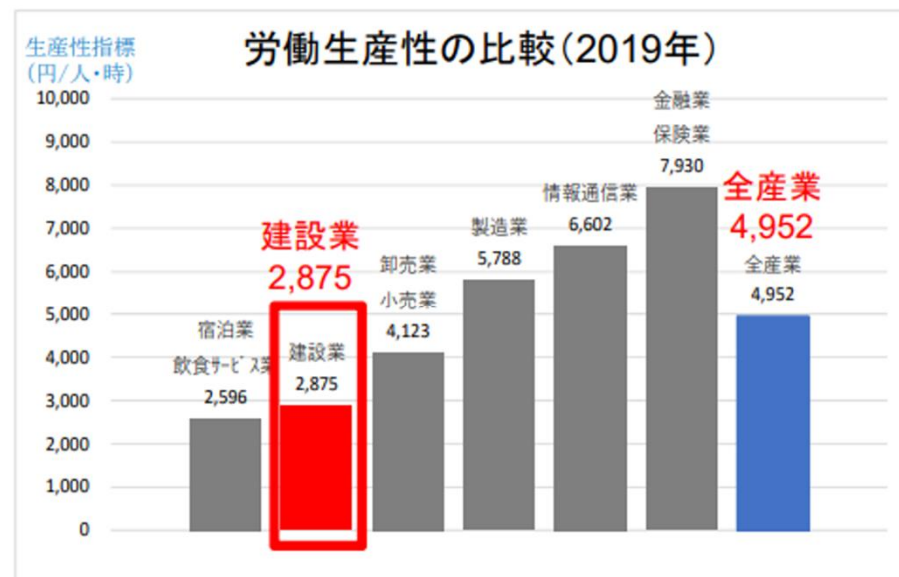
【生産性向上比率※】

$$\text{生産性向上比率} = \frac{\text{産出量 (output)}}{\text{投入量 (input)}} = \frac{\text{付加価値額}}{\text{労働者数} \times \text{労働時間}}$$



※: 国内総生産(2018~2019年)は確定値ではないため参考値。

【参考: 他産業との比較】



<使用統計>

		項目名	統計調査名
産出量 (分子)	付加価値額	国内総生産 (実質値: 建設業, 製造業, 全産業) 付加価値額	国民経済計算 (内閣府)
投入量 (分母)	労働者数	就業者数 調査対象: 個人	労働力調査 (総務省)
	労働時間	総実労働時間	毎月勤労統計 (厚労省)

1. 付加価値労働生産性とは？(再確認)

生産性の定義と生産性向上に関する考察

- **物的労働生産性**, **付加価値労働生産性**の両方が向上していることの確認が必要。
- 「労働者数×労働時間」, 「賃金・利益」の把握が必要。

物的労働生産性 (1時間当たりの施工量) 向上

$$\frac{\text{生産量(施工量)}}{\text{労働者数} \times \text{労働時間}}$$

生産量(施工量)は契約で決まる

→ 「**労働者数×労働時間**」を小さく

付加価値労働生産性 (1時間当たりの賃金・利益) 向上

$$\frac{\text{付加価値額(賃金・利益)}}{\text{労働者数} \times \text{労働時間}}$$

付加価値額(賃金・利益)を大きく → **適正価格での受注**

7

- 経済活動として分析する場合、本来は、付加価値労働生産性で評価されなければならない。
- しかし、実態の把握や改善プロセスには、わかりづらい指標のため、物的生産性等による指標も必要。
- 測り方の試案構築

4

2. 測り方試案:「土木工事における付加価値額算定手法」

- $\neg \hat{O} U \zeta \setminus \emptyset!$ $\check{z} B \uparrow [\mu > " \rangle S f C$
 $\checkmark \neg \hat{O} U \zeta B * ' 3 C Y \{ \div \rangle > \mu T \sim \mu _ j] c \hat{o} \frac{1}{4} m \zeta] c _ \ddot{E} \cdot \setminus \ddot{O} V \setminus \grave{a} \ddot{o} \ddot{o} \sim$
 $T f , T \cdot \hat{O} \ddot{n} \textcircled{R} V +$
- $\neg \hat{O} U \zeta B * ' 3 C \setminus \emptyset Q ' \grave{a} \textcircled{TM} \emptyset \$ \ddot{o} B \uparrow [\mu > " \rangle S f C$
 $\checkmark 1 8 | \cdot a Y 2 a U \circ \ddot{N} : \ddot{E} a$
 $\checkmark 2 a \setminus \S f \text{Æ} \ll \setminus " \neg \cdot D \hat{O} \ddot{O} \ddot{n} \textcircled{R} \ddot{u} \phi \ll \cdot \setminus \ddot{O} ' \setminus \cdot \S \circ \ddot{N} \ll \setminus " Q \cdot \setminus \emptyset \ddot{z} \setminus \acute{Y} \grave{e} \setminus \grave{o} \hat{o} \acute{O} Q$
 $\checkmark \circ \ddot{N} : \ddot{E} a \setminus \S f \text{Æ} \ll \setminus " \mu \hat{o} \acute{Y} \ddot{n} \textcircled{R} \ddot{u} \pounds \div \setminus \cdot \S \circ \ddot{N} \ll \setminus " f \text{Æ} \ll \ddot{n} \textcircled{R} \ddot{u} + \setminus \acute{A} \textcircled{D} \acute{O} Q$
- $\% \circ \acute{U} u 1 \setminus \ddot{O} ' \setminus \rangle \ddot{o} \ddot{Y} u 1 \frac{3}{4} \emptyset \frac{3}{4} \ddot{i} \grave{A} \% B \uparrow [\mu > " \rangle S f C$
 $\checkmark \ddot{Y} u 1 \frac{3}{4} \emptyset \frac{3}{4} \ddot{i} \setminus \ddot{O} \hat{I} \setminus \textcircled{R} \textcircled{D} * ' 3 \ddot{O} \dots \setminus \grave{e} \ddot{o} \ddot{o} \frac{3}{4} \div \setminus \cdot \dots \setminus \grave{e} \ddot{o} \setminus \hat{O} \textcircled{R} \frac{3}{4} \div \setminus \ddot{O} \grave{A} \%$

